

2015年12月

船井情報科学振興財団  
第二回報告書

University of California, Berkeley  
Applied Science and Technology, Ph.D. program  
磯野 文香

2015年秋よりカリフォルニア大学バークレー校 Applied Science and Technology の博士課程に在籍している磯野です。留学を開始した2015年7月から11月現在までの状況を報告させていただきます。

サマースクール(7月～8月)

博士課程開始前の期間を利用して、英語を使って全く異なる分野を学びたいと思い、また現地での生活立ち上げを学期開始前に行う必要もあって、7月に渡米し、カリフォルニア大学バークレー校のサマーセッション(夏学期の授業)に参加しました。授業は International and Area Studies (国際&地域研究) 学部の International Reporting in the Digital Age (デジタル時代における国際報道) という授業を受講し、映像を通して現代における国際紛争や戦争について学びました。フランスの植民地問題とアルジェリア紛争、カンボジアでのポル・ポト派による虐殺、キューバ危機、ルワンダ紛争、中国の文化大革命など、歴史をしっかりと学んでこなかった私にはあまり馴染みのなかった国際紛争について学び、ジャーナリズムやドキュメンタリー、映画が世界に与える影響についてディスカッションをし、レポートなどの宿題をこなしました。文理を問わず様々な学部の学生が興味をもって受講していることに衝撃を受け、他の留学生と国際問題について議論をすることの難しさを実感しました。また、英語で歴史についての中間・期末レポートを書くという新しいことに挑戦でき、多くのことを学べる大変貴重な経験となりました。

研究と授業

8月末から新学期が始まり、出願時に希望していたローレンスバークレー国立研究所にある BELLA グループという、レーザープラズマ加速に関する研究をお

こなっているグループに所属することに決まりました。私が所属する研究室は大学に所属する研究室ではなく国立研究所の研究室であるため、学生が少なく、研究に100%コミットしている研究員が大半を占めています。学期のはじめに指導教官と相談して研究内容を大まかに決め、次学期に研究室で装置の入れ替えが行われることなどから、2年目から本格的に研究を始めることとしました。そのため、今学期は授業の受講をメインとし、加えて2つのグループミーティング(指導教官がキャンパスと国立研究所にそれぞれいることから)に参加し、直接指導して下さる研究員と週に1度ディスカッションを行いました。また空き時間には他のグループの実験の手伝いを行っていました。

## 授業

学部の授業も大学院の授業も、一つのクラスにつき60分×3コマ(or 90分×2コマ)に加えて60分のディスカッションがあります。3コマ分の授業は教師が講義を行い、ディスカッションのコマでは大学院生の学生がクラスを持ち、問題演習をおこなったり質疑応答に時間をあてます。さらに、これに毎週の宿題と中間/期末試験が加わるため、週末も勉強せざるを得ない状況となります。授業によってはグループワークで宿題をしたり、週末いっぱいかけても終わらないほど量があったりして、授業や宿題、研究のサイクルになれるまで少し時間がかかりました。

日本では研究をメインに行っていたので、PhD 2年目以上の学生が研究に専念している横で一度研究を止めて授業を受けなければならないことにもどかしさを感じることもあります。しかし、授業は内容が濃くカリキュラムがしっかりしているので、基礎を身に付けるのに有効な時間を過ごしていると感じています。

## 生活

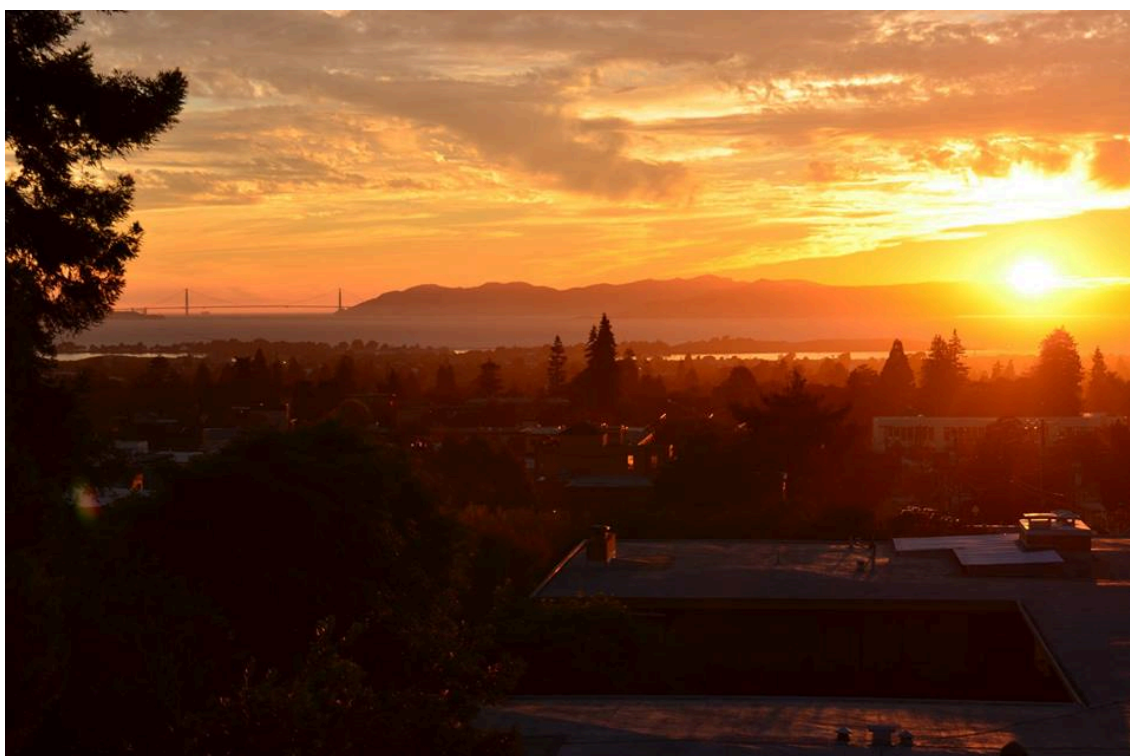
部屋探しは大変苦労しました。大学の寮は桁違いに高い(2015年時点で食事込み月約25万円)か、4月の時点で予約待ちの状態、また不動産屋でワンルームを契約すると月約20万円するため、どちらも候補から外しました。バークレーではオンラインでハウスメイトを探している人を見つけるのが一番安くメジャーな方法のようで、8月初めから20~30件メールを送り、そのうち返信が来た3件のうち、やっと1件、9月からの契約にこぎつけることができました。7,8

月はバークレーから電車で3駅離れた場所でホームステイをし、電車通学をしていました。

9月から住み始めた家は合計10人の大学院生/研究員/社会人が住む大きな一軒家で、その一室を借りています。アメリカ人が半分で他にはイラン人/モロッコ人/インド人/サウジアラビア人が住んでいます。シェアハウスのように、夜や週末はリビングで話したり映画を見たりしています。特にそのような生活を求めている訳ではなかったのですが、海外ドラマで描かれるような生活をしています。

### 最後に

ついにPhD生活が始まりましたが、今はこれまでの学生生活と大きく異なり、金銭面で苦勞せず、通学に時間とエネルギーを費やすことなく、思う存分自分のやりたいことにコミットできる環境にいます。船井財団のご支援のもと、大変恵まれた環境で新しい生活を始められたことに感謝するばかりです。この環境をフルに活用して、これからも勉強と研究に専念していきたいと思います。



自宅から見える夕焼け(左はゴールデンゲートブリッジ)